

私たちは **なぜ**
うまく避難
できない
のだろう



平成 30 年 7 月豪雨を体験した
住民たちの証言から考える



私たちはなぜ うまく避難できないのだろう？

平成30年7月豪雨では、広島県内はもとより、広域にわたって洪水や土砂災害などが発生し、避難の遅れ等により多くの犠牲者が出ました。

毎年発生する大規模な風水害。

そのたびに、避難の遅れや避難途上での危険により、多くの尊い人命が失われていきます。

避難行動は命を守るための最も有効な防災行動。
適切に避難できるかどうかで生死が分かります。

行政やマスコミからは、気象情報や避難に関する情報など、
私たちが避難を判断するための情報が伝えられます。

避難することを決め、行動するのは、私たち自身であることは明らか。

なのに、

私たちはなぜ うまく避難できないのだろう？

私たちの何が問題なんだろうか。

どうすればうまく命の危機を回避できるのだろうか。

このシンプルで有効な命を守る行動「避難」について、
約500名の被災地の方々の証言から考えてみました。

1 証言から考える 「うまく避難できなかった理由」

2 いったい逃げる？ 「避難開始を決断するための情報と行動」

3 証言から見えてきた 「こうやってうまく避難した」

4 うまく避難するための 「日頃の備え」

❌ 危険を察知できなかった

きっと自分は大丈夫だと思った。

だって、今までも大丈夫だったから。

玄関へ行ったら既に床の下まで水が…

玄関に行くまで危険なことに気づけなかった。

朝の4時40分頃だったと思うんです。大丈夫じゃないかなと思って安心しきって寝ていたら、「バツ」という音がしてガラスの「バリバリ」という音がしたんです。一瞬でした。石積みの崖が崩れたんです。家が半壊してしまいました。

呉市 60代 女性 2人家族

実際にはがけ崩れが発生して
ようやくわが身の危険に
気づきました

家には犬もいるし、私も年をとっているし、家が流されるようなことはないと思っていたので、外に出ない方がよいと思いました。そんな中、岩が崩れた時はかなりの危機感を感じましたね。

呉市 60代 男性 1人暮らし

ペットもいるし、
自分も歳をとっているし
これまでも大丈夫だった

避難しようとは思わなかったんです。自分が住んでいる所は安全だという認識をしていました。家の下の道路が海のようになっていますが、家は浸からないと思いこんでいました。

呉市 60代 男性 3人家族

水害や土砂災害の心配のない
場所だと思い込んでいました

こんなにひどい状況になるとは、頭の中をかすめもしなかったんです。避難するという意識は全くなかったんですね。大雨だけど、時間がたてば通り過ぎるとばかり思っていました。

呉市 70代 女性 3人家族

災害に無関心でした

❌ 避難することを決められなかった

行ったこともない避難所に行くのが億劫だった。
足の不自由な家族やペットがいるので、
避難するかどうか迷った。
一人では避難を決断できなかった…。
周りの人が避難しないから大丈夫だろうと思った。

避難所に行っても、硬い床で寝るとか、みんなのおしゃべりとか大変ですし、私はトイレが洋式でないと使えないので迷惑をかけてしまうと思ってね。
家から山も近くないし。川の堤防が切れたらどうにもならないけど、もうなるようにしかならないと思ってました。

福山市 60代 男性 1人暮らし

避難所で滞在するのが
不便そうで、避難が億劫でした

「避難準備情報」が出た時点で住民に声かけをしたけども、誰も避難していないという状況でした。もう寝ようと思っていたらすごい音がして裏の崖が崩れました。そのときは何が起きたか分からない状況でした。高齢の母を崖と反対側の部屋に寝かせていました。こんなことが起きるなんて、いままで一切考えたこともありませんでした。

府中市 60代 男性 7人家族

誰も避難していないので
避難しませんでした

当時は「今すべきことは何だろう」って、くり返し何度も考えていました。
自治会長さんから「避難が必要になったら避難してください！」と言われて避難の準備はしたんです。ところが、それから何も連絡が来ませんでした。気軽に避難できる場所が近くにないし。そうこうするうちに避難が遅れてしまったんです。

呉市 60代 女性 1人暮らし

自分だけでは
避難を決められませんでした

1階に物を置いておいたら、崩れた時にもしかして…と思って、大事なものはまとめて2階に置いておきました。避難する準備は夜からしてたんですよ。周りの家はみんな電気ついているし、うちだけ避難するか迷いましたね。
結局、土砂崩れが「ドォーっ」と来て家が壊れた時に、これはやばいと思って、来てくれた消防団の誘導で避難しました。

呉市 60代 男性 3人家族

周りの家が
避難していなかったから、
私も避難しませんでした

❌ 避難先に行く途中にも、危険があった

車で避難しようとしたが、道路が冠水していて
勢いのある水に流されそうになった。
避難しようとして外に出ると道路に水があふれ、
移動すること自体がとても危険だった。

突然家の中に土砂が入ってきたんですよ。割れた窓ガラスの隙間からどうにか外に出ることができました。その場には危ないと思い、山の中を歩いて近所の家に行き、朝まで過ごしました。避難中は大きな石が流れている上を歩いたり、どんどん水が流れてくる所を歩くことになり、とても危険を感じました。避難しているときは周りには誰もいませんでした。

海田町 70代 男性 2人家族

大きな石が流れてくる、
水がどんどん流れてくる中を
避難しました。
とても危険を感じました

確認しようと思って外に出てみたら道が水に浸かっていたので、避難するしかないと思いました。車で避難したんですが、道に水が溢れていて道路との境目がわからなくなっていました。灯りもないので、暗くて、周囲が見えにくくて、移動中はかなり怖い思いをしました。

三原市 30代 女性 3人家族

避難しようとして外に出たら
道路に水が溢れていて、
しかも暗くて怖かったです

空港に避難しようと思って車で移動していたんですね。前を走っていた息子の車が急に止まって向きを変えたので「どうしたのかな？」と思って見たら、向こうから土砂が崩れてきたんですよ。急遽ICに入って、ICのゲートの前に2日間いました。

三原市 70代 男性 7人家族

避難の途中、目の前で
土砂崩れが発生し、
2日間も足止めになりました

3~4kmくらいで1時間くらいかかりましたね。道が渋滞して、もう進まないんですよ。大渋滞でしたね。どうなっているか状況がわからないんですよ。

広島市 70代 男性 3人家族

避難する車が殺到して
大渋滞に
巻き込まれてしまいました

❌ 帰宅経路と自宅の安全性を十分に確認せず帰宅した

雨がやんだので、もう大丈夫だろうと思い
自宅に戻ろうと帰路についたら、
途中で水かさが増してきた。逃げられなかった。

夜になって雨が少しおさまってきたので、いったん様子を見に自宅に帰ろうと帰路につきました。道路を水が流れてたんですね。それで、じゃあこっちを頑張って帰ろうということで別の道を通って帰りました。結局、雨がやまないのもう一度避難所に避難しました。

海田町 60代 女性 3人家族

雨がおさまってきたので
帰路についたら、
道路が冠水していて、
結局避難所に戻りました

翌日、隣の畑の持ち主の方が避難所に迎えに来てくださったので、帰宅することにしました。ところが、自宅に戻る途中、いつも通っていた家のすぐ手前の道が2箇所も通れなくなっていたんです。崩れた畑の土砂が道を全部ふさいでいて、全然通れない状態でした。

三原市 70代 女性 1人暮らし

自宅に戻る途中の道を
土砂がふさいでいて通れなかった

貴重品を家に置いたまま避難してしまったので、家が心配でした。避難した翌日、徒歩で家に行ってみました。まだ水が膝の高さぐらいまで溜まっていたので、水の中をザブザブ歩いて行きましたね。家の周りは水が引いていました。

広島市 50代 男性 2人家族

家が心配だったので、
まだ水が引かないうちに
徒歩で見に行きました

実家に避難していたんですが、19時頃主人と2人で一旦自宅に帰ったんです。そうしたら、川が決壊していて水がわーっと来ている状態でした。その時点で家の外に60cmくらい水が溜まっていた、車も入れない状態。大切なものを持っていきかけたので、車を停めて、バシャバシャ歩いて家に行きましたが、家の中に急に水が入ってきて驚きました。

広島市 30代 女性 4人家族

夜、家に戻ってみると
川が決壊して、家の中にも
急に水が入ってきて驚きました

2

いつ逃げる？「避難開始を決断するための情報と行動」

市からの「避難情報」を聞いた時が

「逃げ時」



※必ずしも、この順番で発令されるとは限りませんので注意してください。

☑ 「気象情報」や「避難情報」を手がかりに「避難」する

避難場所への避難に迷ったら、町内会の方や自治体、家族に相談しましょう。
職場や外出先にいる場合、むやみに帰宅や移動せずに近くの安全な場所へとどまりましょう。
警戒レベルが高くなるほど避難が難しくなりますので、早い段階での避難を心掛けましょう。

自分のリスク・状況にあわせて避難しよう！

たとえば

85歳の女性
一人暮らし

父と母、中学生の
3人と犬1匹の家庭

土砂災害の危険な場所
に住む5人家族

自宅の周りに大きな被害は出ていない様子。
でも、安心して過ごせたので避難してよかった。
次も早めに避難しよう。

災害が発生している様子。
裏山はどうだろうか、家は大丈夫かなと心配だけど、一家5人の命だけは大丈夫。

避難所で、お友達と話しながら安心して過ごしているの。
あったかいお茶とおにぎり、お漬物も余分に持ってきて正解。周りの人におすそ分け。
外を見ると雨が強くなってきた。早めに避難して、本当によかったわ。

避難スイッチ

ON 事前に登録していた県の防災情報メールから「避難勧告」の発令通知が届いた！
直ぐに、子どもと、犬のポチを連れて、仲の良いママ友の家へ避難。お父さんは帰宅すると危険なため勤務先の近くのホテルへ避難。

避難勧告が発令されて、避難所にはぞくぞくと地域の人たちが避難してきた。
暗くなってきてから、ずぶぬれで避難してくる人達も。
消防団からの声かけで避難することに決めた人たちもいる様子。

避難スイッチ

ON 自主防災組織の役員の人から避難を呼びかけられた。暗くなる前に、近くに住む友達にも声かけて、一緒に避難。
まだ大雨になる前だから、比較的安全に避難できて一安心。

仕事中的お父さんに電話して「避難勧告」が出されたら、ママ友の家に避難すると報告。非常用持出品が入ったリュックには、おやつと、ペットのポチのエサも入れた。これで避難の準備はOK。

避難スイッチ

ON テレビを見ていたら「避難準備・高齢者等避難開始」が発令された。
足の不自由なおじいちゃんを車に乗せて、すぐに避難所に一家5人で避難。雨も小雨のうちに避難できてよかった。

テレビで天気予報を確認。
あらかじめ用意していた非常用持出品の中身をチェック。持病の薬は忘れずに。
近くに住む友達にも、いざとなったら避難しようと声をかけましょう。

お父さんは仕事で、ちょっと不安…
スマートフォンで気象情報と行政が発信する避難情報を収集。
安全な地域に住んでいるママ友に電話して、避難させてもらえることに。これで一安心。

家の裏には山があり、ハザードマップには土砂災害の危険箇所指定されている。
土砂災害の被害を受けないためには、早めの避難が肝心。危険な状況になる前に避難所に避難できるよう、一家5人分の非常持ち出し品を確認。

☑ 逃げ遅れずに、生き残るために「率先避難」

避難勧告等が発令されると、不安の中、みんなが避難しようかどうかと悩んでいます。そんな時、隣近所に声を掛けて率先して避難するあなたの行動が、多くの命を救うことにつながります。勇気をもって避難しましょう！

3

証言から見えてきた「こうやってうまく避難した」

☑ 危険を察知して、避難スイッチをON！

居住地の災害リスクを自分ごととして認識していた

今までの経験上、この雨は尋常じゃないと思ったんですよ。これは被害が出てもおかしくないなと。昭和42年の水害が頭をよぎって、またあの時のようになるのではないかと思いましたね。

呉市 60代 男性 2人家族

集会所へ避難

自分は避難するのに時間がかかる人だということを自覚していた

心臓病、足も悪い、糖尿病、高血圧で通院中です。以前から、今度何かあったら避難しなきゃいけないと思っていました。自主避難して皆さんに迷惑かけなかったことが良かったなと思ってますよ。

東広島市 70代 女性 1人暮らし

福祉センターへ避難

近隣の異変を察知し起きる災害をイメージできた

川から独特な土のにおいがしたんですよ。今まで嗅いだことのないような。それで、目の前の川が氾濫するのではないかと思いました。

海田町 40代 男性 3人家族

会社へ避難

☑ 自分で避難を決断する。
避難に迷ったら信頼できる人に相談する。
安全に避難できる「逃げ時」をのがさない！

居住地の災害リスクを自分ごととして認識していた

以前から気象情報を気にしていましたので、金曜日の午後から娘の家へ独自避難しました。当日避難した方は大変だったんです。早めに避難しなきゃダメです。怖い思いをしなくていい避難が一番ですよ。

東広島市 70代 男性 2人家族

娘のところへ避難

自治会長に避難を相談して避難を決めることができた

避難するという頭はあったので、まず老人会の会長さんに連絡しました。その方が区長さんに連絡してくれて、区長さんから私に「福祉センターを避難所に開設したのでそちらに避難して下さい」と連絡がきました。

東広島市 70代 女性 1人暮らし

福祉センターへ避難

隣の人が避難するのを見てわが家も避難しようと決めた

避難を決めたのは、雨がひどく家の周りが川のような状態になっていたことと、周りがみんな避難しはじめたことが大きいですね。

呉市 30代 女性 4人家族

町づくりセンターへ避難

日頃から家で防災の話をしてきた

毎年のように台風の季節は経験しているし、防災に対してどのようにしたらいいか家族で話をするじゃないですか。ここは避難所があっても避難所への道が冠水してなくなってしまふんです。そうしたら早い行動をするしかないですよ。

三原市 60代 男性 2人家族

学校の体育館へ避難

✓ 安全に避難先まで避難する

浸水箇所を迂回。安全なルートを通って避難した

避難しようと思ったら、スーパーの前の道路に水が1mくらいあったので、水に浸かっていない上の道を通って避難しました。

呉市 50代 女性 3人家族

実家へ避難

足の不自由な人と一緒に避難した

車イスが必要な近所の女性の方をどうやって避難させるかをけっこう悩んだんですよ。座れないので、手押し車で避難させるのも難しかったです。水が引いたところをねらって車を隣の家の前につけて、一緒に避難しました。

海田町 70代 男性 5人家族

学校へ避難

浸水しそうな場所を避けて避難した

学校の駐車場に車が入ろうと思ったら、もう水路から水が「ザーザー」流れていました。ここに置くと危ないと思って安全そうな別の場所を探して移動しました。

三原市 60代 女性 2人家族

学校の体育館へ避難

✓ 命を守るために、最善の行動をとる

外に出るのが危険と判断 垂直避難を選択した

道路が冠水していて、とても車で避難所まで行けない状態でした。母親が歩けないので、車が使えないと避難できないんです。なので、まず2階に上がりました。母は平屋に住んでいたのでもベッドの上にはいました。

海田町 60代 男性 3人家族

自宅の2階へ避難

外に出るのが危険と判断し 近くの安全な場所に避難した

避難所に行こうと思ったんです。でも、あちこち道が壊れて行けなかったのでも隣の家に避難しました。逃げる時に、ころげかかって服が下着まで濡れてしまいましたが、翌朝までそのまま過ごしました。

三原市 70代 男性 3人家族

隣の家へ避難

✓ 100%安全を確認して帰宅

情報を収集して ルートの安全を確認してから帰宅した

3日後ぐらいに商店街の方をまわれば歩いて行けるという情報をもらったんです。子どもを連れていくのは大変だと思ったので、主人だけが先に行って自宅の安全を確認しました。その後、残りの家族が避難所から自宅に戻り、2階で生活しながら片づけをしました。

呉市 30代 女性 4人家族

町づくりセンターへ避難

4

うまく避難するための「日頃の備え」

Step 1 ハザードマップで危険性を知る

市町が公表している「ハザードマップ」を入手して、自宅や地域にはどのような災害が起きやすいか確認しましょう。

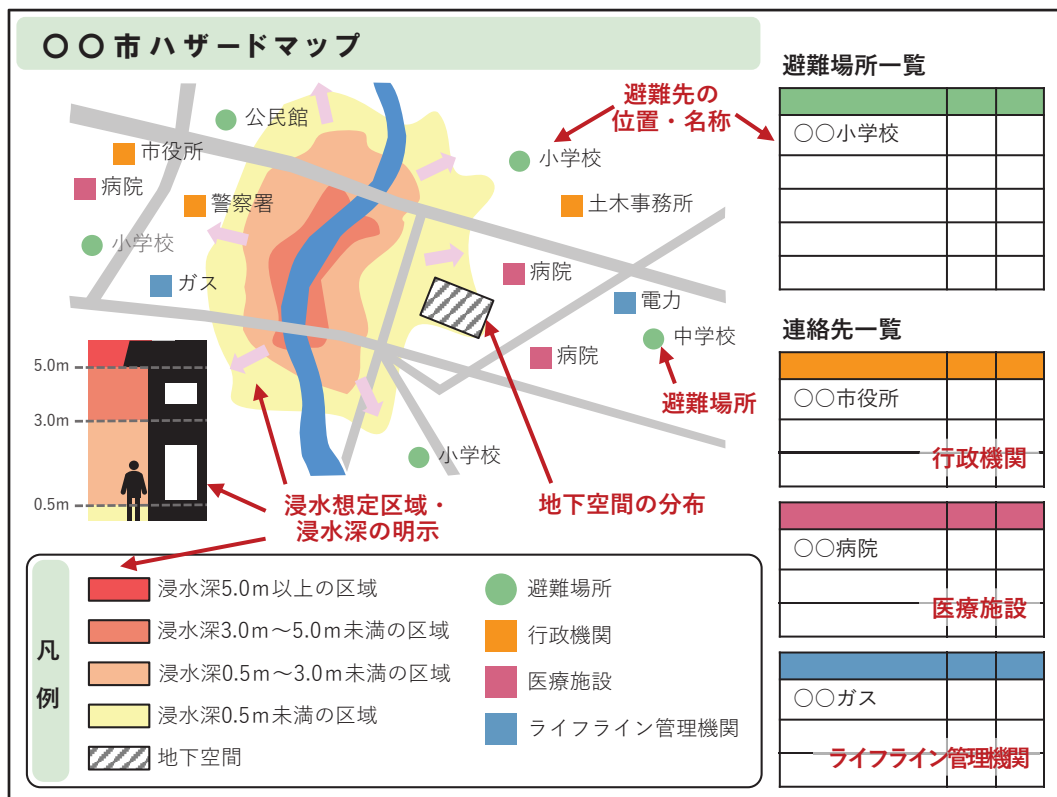
風水害に関するハザードマップは複数あります

- 洪水害（外水氾濫）
- 浸水害（内水氾濫）
- 土砂災害
- 高潮災害

災害リスクは地域によって違います！

ハザードマップは点でなく「面」でみましょう

- 自宅の被害を確認
- 地域の被害を確認
- 避難先の周囲や、避難経路になりそうな地域もあわせて確認



- ハザードマップとは、地震や台風・津波など自然災害が起きた時に被害が想定されるエリアなどを表示した地図のことです。
- ハザードマップは各市町の窓口やホームページで入手できます。

Step 2 災害を理解し、自宅や地域の被害をイメージする

過去の災害事例等から、被害のイメージを持ちましょう。

豪雨の際には、単独の災害のみならず、平成30年7月豪雨のように、複数の災害（土砂災害と浸水害）が同時に、または時間差で生じることもあります。

また、自宅に、危険が迫った時点で避難場所への避難を考えても、すでに道路は冠水していて避難が不可能な場合もあります。

そのため、豪雨災害の適切なイメージを持つことが必要です。

土砂災害と浸水害の両方が発生した地域の様子 (平成30年7月豪雨 広島県内)

安芸郡坂町小屋浦



土砂の堆積状況



土砂の流出状況



呉市天応

出典：地域の砂防情報アーカイブ（広島県砂防課）
「平成30年7月豪雨災害」（広島県砂防課／平成31年3月発行）

Step 3 避難ルールを決めて、避難するイメージをもつ

あらかじめ、家族と一緒に避難ルールを決めておきましょう。

1 タイミング

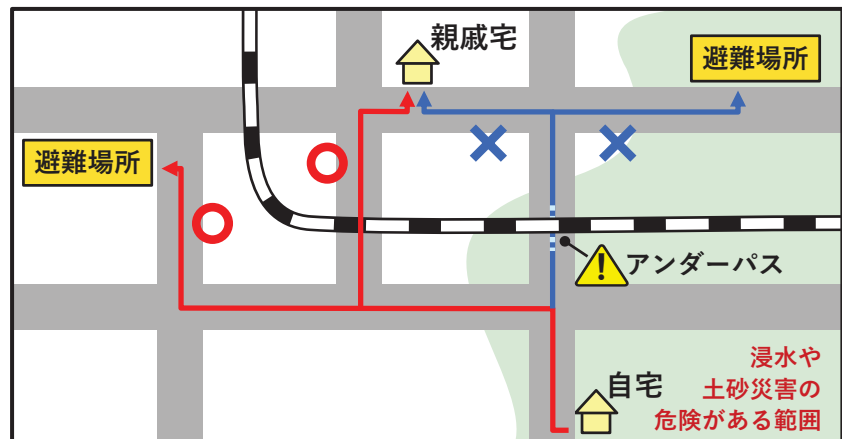
- 自身のリスクと地域のリスクを考慮して、いつ避難を開始するか、そのタイミングを決めます
 - ・ 市町から「避難準備・高齢者等避難開始」が発令されたら
 - ・ 市町から「避難勧告」が発令されたら

2 避難先

- 安全な避難先を決めておきます
- 市町が決めた「避難場所」にこだわらず、安全な親せきや友人の家などに避難するのも有効です
- 避難場所での滞在がイメージできるよう避難場所の設備や環境を確認しておきましょう

3 避難ルート

- ハザードマップなどを見て、被害のおそれがある場所や低い場所などを避けて、できるだけ安全に移動できる避難ルートを決めます
- 複数の避難ルートを決めておきましょう



4 避難方法

- 避難場所へは歩きが基本です
- 歩行が困難な方などは、車を使って移動できるよう地域や行政に相談しておきましょう

5 服装・持ち物

- 運動靴やカッパ、懐中電灯などの避難用品を準備しましょう
- 数日間避難所で過ごすことも覚悟して、避難時に持ち出す「非常持出品」を準備。薬やコンタクトレンズなど、個人特有なものも忘れずに

Step 4 避難に備える、訓練する

訓練での体験が、誤った心のブレーキを防ぎます。

非常持出品をそろえる

飲食物、救急用品、貴重品など、最初の1日をしのぐために必要なものを用意。リュックなどに入れて、玄関など容易に持ち出せる場所に保管します。



情報収集手段の確保

TV、ラジオ、スマートフォン、パソコン、タブレットなど、情報を収集する手段を複数確保しておきます。停電に備えて充電器や乾電池も備えます。



地域で一緒に危険確認

ハザードマップを使ったまち歩きで、危険箇所や危険エリアなどを確認しましょう。地域には自力で避難することが困難な方がいらっしゃいます。それぞれの事情に合わせて適切なタイミングで避難できるよう、避難を支援するための準備を進めましょう。

訓練に参加して力をつける

いざという時に備え、ご近所同士でしっかり支え合い命を守ることができるよう、日頃から地域の防災訓練などに参加しましょう。



避難についての 素朴な疑問

Q&A

Q1 避難と言われてもどこに行けばいいかわかりません。

A1 避難＝避難所に行くとは限りません。今自分がいるところより安全なところ、「水や土砂が来ないところに身を確保する」ことを考えてください。

Q2 避難時、車で逃げてもいいですか？

A2 余裕を持って逃げられるタイミングであれば大丈夫ですが、浸水が始まっていたら車は避けるのが原則です。

Q3 避難所や避難場所は人も多く不便そうなので行くのが不安です。

A3 安全な場所にある親せきや友人の家に遊びに行くことや、台風襲来前に「どこか温泉に泊まりに行く」のも避難の一つの考え方です。

“ 決めた。早めに避難する！ ”

多くの証言が教えてくれた。

大事な家族のいのちを守るために、

愛する人たちを悲しませないために、

やるべき最も重要なこと、それは、

避難スイッチを ON すること。

タイミングを逸することなく決断し、安全に避難すること。

それができるのは、

自分と家族のリスクを知っている人。

自然を正しく恐れることができる人。

心の弱さを知り、客観的に自分を見ることができる人。

前もって避難のルールを決め、準備することができる人。

• あなたの避難が、みんなの命を救う。 •

災害時、避難した人のほとんどが、

“まわりの人が避難したから”を理由に避難を決めています。

だからこそ、まずあなたから、避難をはじめてください。

終わりに

本冊子「わたしたちはなぜうまく避難できないのだろう」に掲載している証言は、今後、災害のおそれが生じた際において県民の皆さんに早めの避難をしていただくための良いきっかけとなるよう、調査から得た証言をもとに編集させていただいたものです。

調査にご協力頂いた方々にあらためてお礼申し上げます。

発行：広島県 危機管理監 減災対策推進担当

〒730-8511 広島市中区基町10番52号

TEL：082-513-2781 / FAX：082-227-2122

発行年月：令和元年12月